



笑顔と絆に支えられた一年を振り返って

春の足音がすぐそこまで聞こえてくる季節となりました。高等部3年生33名、中学部3年生27名、小学部6年生20名のみなさんは、それぞれの教育課程を無事終え卒業を迎えようとしています。この一年間、本校の教育活動を温かく見守り、力強く支えてくださった保護者の皆様、地域の皆様に、心より感謝申し上げます。

この一年を振り返ってみると、真っ先に思い浮かぶのは子どもたちの笑顔です。朝のあいさつ運動で見せるさわやかな笑顔、授業中にわかったと目を輝かせる瞬間の顔、そして朝運動で友だちと手を取り合い、全力で駆け抜けた後の達成感に満ちた表情。それら一つひとつの笑顔は、子どもたちが倉敷支援学校で自分らしく過ごし、確実に成長を遂げてきた証でもあります。人とつながり、共に笑い、成長を実感する場となっていたことを子どもたちの笑顔で再認識しました。そして、子どもたちを笑顔にさせる大きな土台となったのが PTA の皆さまとのつながりです。日々の登下校送迎、学校行事への全面的な協力、そして子どもたちのために企画してくださったプール開放、ミニきらりん、ベルマーク活動など。お忙しい日々の中、子どもたちのために何ができるかを考え、奔走してくださる姿に、私たち教職員はどれほど励まされたことでしょうか。PTA 活動を通じて育まれた保護者と学校の信頼関係は、子どもたちに安心感を与えます。自分の周りには自分を支えてくれる大人がこんなにたくさんいるという実感こそが、子どもたちの自己肯定感を育む元となりました。ありがとうございます。

また、本校の教育活動は、地域という大きな応援の存在をなくして語れません。学校運営協議会では、委員の皆さまから学校経営に対して多角的かつ建設的なご助言を多くいただきました。学校の抱える課題を自分たちのこととして捉え、共に知恵を絞ってくださったことは、本校の大きな財産です。さらに、支援地域本部実行委員会の皆さまによる、学校への熱い支援には言葉では言い尽くせない感謝の思いでいっぱいです。環境整備、ゲストティーチャーとしての登壇、新田公民館でのきらりんフェア開催など、地域の皆さまがもつ専門的な知識や豊かな人生経験が学校に注入されることで、教育活動はより深く、豊かなものへと進化しました。ボランティアの枠を超え、学校と地域が一体となって子どもを育てるコミュニティスクールを体現してくださいました。

この一年で築き上げた絆というタスキを次年度へとつないでいく決意です。

令和8年度は、さらなる高みを目指して駆け抜ける「午年」です。子どもたちの夢が力強く大地を蹴り、高く舞い上がる学校づくりを皆さまと共に力強く推し進めてまいります。

(副校長 幾留桂子 いくとめけいこ)

ミニきらりんの様子

